

# 和歌山県立はまゆう支援学校 学校運営協議会

令和4年度 第1回 【7月15日】 10:00~11:30

出席者：委員 7名 傍聴者：2名

## 会議の流れ

- ① 学校長挨拶
- ② 学校運営協議会委員委嘱 任命書の交付
- ③ 学校運営協議会についての説明
- ④ 会長・副会長の選出
- ⑤ 学校運営方針について
- ⑥ 今後の学校運営協議会の活動について
- ⑦ 意見交換
- ⑧ その他

## 【議論した主な内容】

- ① 学校長挨拶
- ② 学校運営協議会委員委嘱 任命書の交付  
学校運営協議会委員に任命書を交付したあと、学校運営協議会委員の自己紹介を行った。
- ③ 学校運営協議会の目的、ねらい等について説明  
和歌山県学校運営協議会規則を配付し、この会の趣旨や目的を説明し、地域とともに学校運営を行っていくことを確認した。
- ④ 会長・副会長の選出  
会長 西脇 潤 氏 副会長 稲田 進彦 氏 が選出された。
- ⑤ 小原校長より、はまゆう支援学校学校運営の重点方針を説明し、協議を行った。  
〈主な内容は次のとおり〉
  - 県立はまゆう支援学校の現況について
    - ・全児童生徒数(203名)  
知的教育部門：小学部51名 中学部54名 高等部97名 計202名  
聴覚教育部門：中学部1名 合計203名
    - ・児童生徒数の推移  
今までは、高等部の生徒数の増加が見られていたが、今年度は、小学部、中学部の児童生徒数の増加が見られ、今後も、小学部、中学部の児童生徒数の増加傾向が予想される。
    - ・本校教員の年齢分布  
昨年から平均年齢が1歳下がり、平均年齢40.9歳になる。  
今年度は、学校間異動、退職等で、ミドルリーダーと呼ばれる中堅層の教員が若干増えた。
    - ・昨年度の高等部卒業生の進路について  
高等部卒業生40名の内、7名の生徒が一般就職(一般事業所)をした。
  - 令和4年度学校運営方針
    - ・「ゆたかな心 たくましい力」  
教育目標  
「 児童生徒一人ひとりの発達の段階、障害の特性及び生活の実態に即した教育活動をとおして、発達の可能性を最大限に発揮伸長させ、たくましく生き抜く力を育てる 」
  - 令和3年度の学校評価結果報告
    - ・結果については、本校のHPに掲載している。
  - 今年度の重点目標
    - 1 児童生徒一人ひとりの教育的ニーズを踏まえた授業の充実を図る。
      - ・新学習指導要領を踏まえ、授業改善を中心に取り組んでいる。
      - ・来年度の南紀はまゆう支援学校(仮称)開校に向けて、県立学校教育課特別支援教

育室指導主事と福岡大学徳永教授の助言をいただきながら、教科の視点で子どもたちにどんな力をつけていくのか、そのための教育課程をどう考えればいいのか、単元計画をもとにした授業づくりと授業改善のポイントなど、南紀支援学校とはまゆう支援学校の両校の教員合同で研修を行っている。

- ・今年度も稲田先生に学校指導支援員として、初任者教員への指導を中心に、中堅教員とコラボして、授業実践、授業づくりの研修をお願いしている。
- 2 児童生徒の健康の増進及び安心・安全な教育環境の整備を図る。
  - ・新型コロナウイルス感染症等の情報を提供し、感染予防に努める。
  - ・ヒヤリハット事例報告を全教職員で共有し、危機管理意識を高める。
  - ・計画的、組織的に防災学習を実施し、全校で訓練を行う。今年度も、上富田ふれあいルーム講師幾島さんに協力をお願いし、教員研修や防災授業(ゲストティーチャーとして)をお願いしている。
- 3 センターの機能を充実させるとともに地域に開かれた学校づくりを推進する。
  - ・夏季休業期間中に、本校で夏季研修会「あがらのなつ」を実施。地域の高等学校の協力の下、田辺工業高等学校の通級指導教室の取組と南紀高等学校の定時制教育についての話題提供を行う予定である。
  - ・コロナ渦における「地域に開かれた学校づくり」については、学校運営協議会委員に意見をいただきながら、よりよい取組や情報を発信していきたいと考える。
- 4 南紀はまゆう支援学校(仮称)の開校に向けて、学校運営組織を整備し、教育課程を編成する。
  - ・両校で連携し、田辺西牟婁地方の多様な教育的ニーズに踏まえた教育課程について検討を進めている。
  - ・両校の交流学习も積極的に計画、実施している。小学部なかよし交流や中学部合同校外活動など。活動をとおしてお互いを知る機会の設定を行っている。
  - ・校舎完成は、令和5年9月末日予定。令和5年4月以降、完成している新校舎の教室使用については、現在検討中である。

#### ○今年度の学校の取り組み

- 1 上富田町内の小学生をはまゆうに支援学校に招待する。
  - ・上富田町立岩田小学校5・6年生対象に高等部作業学習体験を実施予定である。
  - ・障がい者への理解を深める機会とし、高等部生徒にとっては、教師役となることで自己有用感を高める機会とする。
- 2 夏期研修会「あがらの夏」の充実
  - ・校区内に所在する教職員が連携し、障害をもつ児童生徒の教育活動の充実を図る。
  - ・校区内の高等学校との連携を深め、進路選択の現状と課題について情報交換を行う。
- 3 南紀はまゆう支援学校(仮称)の開校に向けた相互理解を推進する。
  - ・南紀はまゆう支援学校(仮称)の教育課程を編成するために、児童生徒の実態に即した交流学习を実施する。
  - ・指導方法、支援の方法について、お互いに理解を図る。

#### ○質疑応答

- ◇重点目標1に記されている毎週1回「15分授業改善」について説明をお願いしたい。
  - ・毎週木曜日16:00~16:15の間で、授業改善に向けた打合せ(小集団)を行っている。今年度は算数・数学の授業について、単元シートをもとに、教科グループ担当が集まって、話し合いを行っている。来年度も、この取組は継続していく方向で検討している。
- ◇教科学習グループの教員メンバー構成は?
  - ・教科によって、メンバー構成は変わる。教科グループの集団編成は、学年、ブロック、学部縦割り等、教科や児童生徒の実態によって集団編成を変えて取り組んでいる。
- ◇来年度、南紀はまゆう支援学校(仮称)開校を控え、はまゆう支援学校として、どのような幕の引き方(閉校式)を考えているのか
- ◇夏休みの過ごし方やスポーツ等の取組について。学校のクラブ活動など、段階的に地域に移していこうという動きがある。地域との交流とからめて、今後どのように取り組みを進めていければいいか。
- ◇統合後の学校運営協議会のビジョンは?
  - ・令和5年3月に、はまゆう支援学校閉校式を実施する予定である。内容は、現在検討中。地域の方々に今までのお礼ということもかねて、記念品(高等部作業製品)、リーフレット等を準備している。
  - ・夏休みの過ごし方、スポーツの活動を含めた余暇活動の充実も本校の課題。
  - ・紀北地域では、障がい者スポーツ大会に向けた練習会等を実施している。異年齢集団における活動は、子どもにとって刺激があり学びも多い。紀南地域でもこのような取組があればうれしい。

- ・他の支援学校では、地域の選手として、高等部の生徒が障がい者スポーツ大会に参加している。地域の一員としての参加であり、高等部卒業後も生涯学習の一環としての取組がされている。また、他校では、卒業生が中心のソフトボールチームがある。外部組織として、市町村と連携し取り組んでいる。
- ・障がい者スポーツ大会には、現在、はまゆう支援学校は学校として参加している。卒業後の生涯スポーツとしての観点から、上富田町と連携して、地域の理解を得ながら取り組んでいければ。
- ・上富田町のスポーツ振興計画等照らし合わせながら、学校と地域との連携も考えていきたい。
- ・具体的な夏休みの過ごし方と言えば、放課後等デイサービスがある。放課後等デイサービスに繋がっている家庭はいいが、普段学校があるので利用していない家庭や夏休みは利用が集中するので利用できるコマが少ない家庭もあり、課題の一つである。
- ・放課後等デイサービス事業所も夏休みの取組に苦慮しているところもあるので、声をかければ、何か一緒にできる取組もあるのではないかと。
- ・来年度の学校運営評議会構成組織として、進路、地域、教育、福祉の4分野から委員の構成を考えている。このスタンスは、両校同じである。
- ・南紀支援学校、はまゆう支援学校の両校で、情報交換しながら、来年度の学校運営協議会組織について考えていきたい。

⑥ 小原校長より、今後の学校運営協議会の活動について説明し、協議を行った。

〈主な内容は次のとおり〉

- ・今年度は、年3回の開催を予定している。開催日時は、各委員との調整をもって決定していく。内容として、今年度、はまゆう祭の実施を計画しているの、その活動等も見ただければと考えているが、新型コロナウイルス感染症の状況によっては、昨年度同様、作品展示のみになることもある。
- ・開催決定は、学校運営協議会会長決裁となるが、決裁権をはまゆう支援学校校長に委任することを承認していただければ、第2回以降の開催決定は校長決裁による事務処理とさせていただきますが、承認をお願いする。

⑦意見交換 【意見・質問】

- ・令和5年度に南紀支援学校、はまゆう支援学校の統合校が開校するにあたり、学校運営協議会は何ができるかが気に係るところである。今後、南紀支援学校学校運営協議会と合同で考える場の設定も必要ではないかと考える。両校の閉校と統合について、今後、どういことが必要なのかテーマを絞って議論ができれば、学校運営協議会としてもお役に立てるのではないかと考える。
- ・たとえば、機会があれば、南紀支援学校新校舎を会場として、学校運営協議会を開催していただければ、イメージも持ちやすいのではないかと。両校の都合もあるので、そのところ、調整していただければ。
- ・通学路や活動の中で、危険なところ、安心安全面での情報がいただければ、上富田町として、リストアップして対応していくので、夏休み中でも、検討していただければ。
- ・令和5年度10月までは、南紀支援学校新校舎とはまゆう支援学校旧校舎の併用となり、校舎間の移動時や南紀あけぼの園生の通学時の安全確保について対策を講じているところである。車の往来や、交通ルール、マナーの徹底等、課題に対して、対応策を考え、また、上富田町にお伝えしていく。

● 「第1回県立はまゆう支援学校学校運営協議会」の様子

